

性的少数者の米俳優

ジョージ・タケイさんに聞く

# 社会の偏見を変えたい

ハリウッドで活躍する日系米国人俳優のジョージ・タケイさんが来沖し、講演会(主催・在沖米国籍領事館)で自身の半生について語った。タケイさんはゲイで2008年に同性結婚。LGBT(レズビアン・ゲイ・バイ・トランスジェンダーの略)的少数者の地位向上と差別撤廃を目指して活動している。これまでの経験やLGBTの支援の重要性について、タケイさんに聞いた。

(聞き手＝清田ちひろ)

「ゲイをカミングアウトしたきっかけは、

「家族や親しい友人には伝えていたが、俳優という職業でゲイの公表はキャリアの妨げになる可能性があった。05年、カリフォルニア州の大学が同性結婚を認める法案を可決したが、当時のシロルツエネツカ州知事が拒否権を発動。その時に私は非常に怒りを感じた。若者が抗議するのをテレビで見ても、私も動かなければ駄目だと

## 新しい時代へ 先進例学んで

思ったパートナーと相談してカミングアウトした。その後支援してくれる人が出てきて自信がついた」

「どのような支援活動をしているのか。」

「政府機関や大学、さまざまな場所で講演している。フェイスブックなどソーシャルメディアでも情報を発信している。差別的な言動をした政治家などに対して、エモアを交えながら批判し、LGBTの権利を主張している」

「LGBTの平等な権利に対する理解も広がり、社会の状況は変わってきた。しかし一般の多くの人たちは問題について考える時間があまりない。一方、自分がLGBTという理由で苦しむ人たちがまだいる。社会の中に偏見があるからだ。社会全

体の考え方を変えていきたい」

「沖縄のLGBTにメッセージを。」

「LGBTの差別撤廃のためにさまざまなキャンペーンを行うのは素晴らしいことだ。LGBTという理由で排除しようとする社会は不自然で間違っている。社会全体を変えるときに重きを置いて、頑張ってもらいたい」

「支援で大切なことは、

「一番大切なのは、LGBT

は生まれたときのまま、自然に従って生きていると理解することだ。社会は家族を基本として成り立っている。親がLGBTの子どもの差を排除すると、子どもは希望を失ってしまう。親子は愛し合うことが自然であって、子どもがLGBTだから愛さない、というのは自然ではない」

「社会がこの問題について一生涯命に取り組みなければならず、それから変化が生まれてくる。日本は先進的な他国の事例を取り入れる必要がある。新しい時代に入っていくため、学んでいかねばならない」



「同性愛者を排除するのは不自然で恥ずべきこと」と家族や社会の理解を求めるジョージ・タケイさん＝2日、那覇市久茂地・沖縄タイムス社

本名ジョージ・ホサト・タケイ  
・アルトマン 日本名は武井橋郷。1937年にカリフォルニア州リカ人2世。第2次世界大戦中、5歳で家族とともに強制収容所に収容される。俳優として活躍し「スタートレック」シリーズなどに出演。2005年にゲイをカミングアウトした。

6/6/2014  
Okinawa Times

P.21